

金賞

「目覚めた瞬間」から大変身

富士フィルムフォトマニュファクチャリング株式会社

清水 礼子

私は2年前、フィルム加工工程からフィルム製造工程に異動してきました。業務は、フィルム原料であるゼラチンの準備担当です。この異動で私の人生が大きく変わる出来事がありましたので、紹介します。

前の職場では「機械が調子悪い」「電球が切れた」と言えば、すぐに男性が対応してくれていましたので、今の職場でも何かあると、ろくに調べもせず何でも同僚男性を呼んで対応してもらっていました。そんな中、1年が過ぎたころゼラチンが入ったコンテナを自動搬送するローラーコンベアの途中で、コンテナが停止してしまう故障が頻発するようになってしまいました。その日は同僚の手が空かず、仕方なくリーダーに連絡しました。すると「どの辺りで発生したの？」と聞かれましたが、私はエラーランプが点灯したことしか確認していないので、「わかりません」と一言答えました。するとリーダーは「自分が使っている設備だろう。見てあげようよ。アイツも毎回呼ばれて大変だと言ってたぞ！少しは自分の設備なんだから！」と怒られてしまいました。でも心の中では、「そんなの男性の仕事じゃないの？」「なんで私が怒られなきゃいけないの？」と思っていました。しかし、家に帰って冷静になると、確かにいつも旦那に家のことはお任せで、「また～？その位たまには自分でやってくれよ～」と、よく文句を言われているのを思い出しました。

でも、「機械のことよくわからないし・・・、それくらいいいじゃん！」という意識が常にあり、旦那も文句は言ってもやってくれる人で、「きっと、同僚男性も文句を言いたいけど我慢して何も言わずにやってくれていたんだろうな～」と思うと、段々自分が恥ずかしくなってきました。「これじゃ駄目だ！自分でまずはやってみないと！」と、考えを改めさせられ、これが「目覚めた瞬間」でした。

次の日、まずはコンベアのローラーをよく観察してみることにしました。すると、ローラーの回転が悪いことがわかり、さらによく見ると表面がザラザラしており、何かでコーティングされているようだったので、掃除を試みることにしました。すると、すぐに発見がありました。表面のザラザラは、長年に

渡り蓄積されたゼラチンの汚れだったのです。自分の目で見て発見することの面白さに気付かされ、徹底的に掃除を行いました。掃除後は見違えるほど綺麗になり驚いていると、やる気が出てきた私を見てリーダーは、「掃除は自主保全の基本なんだよ」と、得意気に笑みを浮かべていました。しかし、掃除だけでは完全には直らずローラーの中の構造をリーダーと一緒に調べて、ついに原因を特定しました。

設備は30年前の古い物でいろいろガタもきており、ローラー内部のベアリングが劣化していました。やる気になった私にリーダーは、「次はこれをやってみよう！」と工具の使い方やベアリングの交換方法を教えてくれました。まさかそこまでやるとは思っていなかったのですが、初めての挑戦にドキドキしながら交換作業を行い、このころには設備に向かって必死になって取り組んでいる私がありました。その後、設備の故障が完全に無くなった時、私も設備に興味を持てる女性に大変身していました。

それからは、低電圧操作者教育や、自主保全士2級の資格も取得し、今では家の家具の組み立てや電球交換も自分でもやるようになり、何もできなかった私が巧みにドライバーを使いこなしている姿を見て旦那もビックリしています。女性でも、きっかけとやる気があれば大変身できるのです。私は、あの「目覚めた瞬間」というきっかけがあったことで、今までの殻を破り、何事にも挑戦できるように変わったと思います。今後は、さらに一歩前進した“設備に強い女性”を目指して頑張っていきたいと思っています。